

令和2年度 世田谷区立 喜多見小学校
学校関係者評価自己点検表
まとめ

	A とても思う	B 思う	C 思わない あまりない	D 思わない	E わからない
--	------------	---------	--------------------	-----------	------------

1 学習指導について

自分は、子どもたちが授業の内容を意欲的に学ぶために工夫している。	3	33	0	0	0
自分は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	4	31	1	0	0
自分は、子どもの話合いや発表などの機会を作っている。	6	28	2	0	0
自分は、映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている。	1	21	8	2	4

理由・改善策

- ・実物を見た方が分かりやすいこともあるので、実物を拡大して黒板に貼ったり、実物投影機を使ってテレビで見せたりはしている。
- ・タブレットを活用して授業を行うことを意識して行った。学年段階の問題で児童にタブレットを使わせることは難しかったが、今後も活用していきたい。
- ・先輩の先生の授業を見たり、教材研修をしたりして、授業内容を工夫する努力をした。話合い活動や、タブレットを用いた授業がなかなかできなかったので、今後は状況を見ながらうまくやっていきたい。
- ・学校のICT環境に慣れていない。パスワードを教えてもらったが、いまだそれで開けないし開く余裕がない。自分の機器でなんとか対応している。マニュアルが欲しい。何度も聞くのはつらい。
- ・子どもの心に響く授業をすれば、子どもは真剣に学習に取り組むようになる。日々実践していくよう努力する。
- ・コロナ禍の中、工夫したグループワークを取り入れることができた。
- ・昨年度に比べ、映像やタブレットを活用できている。
- ・コロナ禍で、児童の話し合いや発言を多く求める授業を避けた。一人一人の意見を記述によって理解するような授業展開を心掛けた。
- ・毎回デジタル教科書やNHK for schoolなどを活用して、わかりやすく、イメージを広げやすい授業を意識している。コロナ禍において、やり取りは難しいがスピーチをしたり、一人一人が発話できるような場面を単元の中に複数回設定するようにしている。
- ・すまいるの授業では、音楽の指導時にスピーカーやCDプレーヤーを使うことはあるが映像やタブレットは使用しないため。
- ・すまいるルームにはタブレットやテレビが無いため、活用が難しい。

【考察】

- ・コロナ禍のため、話し合いやグループワークの制約がある中、児童の理解が深まるよう、授業の内容や板書を工夫して授業を行っている。学年の教員と話し合ったり、先輩教員の指導を見たりすることを引き続き大切にしていく。「とてもそう思う」の数が少ないのは、授業準備の時間が少ないと原因の1つだと考える。教材研究の時間の確保や、これまでの教材の効率的な共有を考えていきたい。
- ・ICT機器を用いると更なる工夫につながるが、ICT機器その物やインターネット環境の整備が不十分であり、日頃の授業で気軽に用いることが困難である。映像やタブレットを使って分かりやすい授業をするためには、更なるICT環境の整備が必要だと考える。

2 生活指導について

自分は、学校のルールについて子供に考えさせる指導をしている。	6	28	2	0	0
本校は、教員が指導したルールについて子どもが理解している。	1	29	6	0	0

理由・改善策

- ・具体例を示したうえで繰り返し伝えていくとともに、SSTも取り入れていく。
- ・喜多見スタンダードを学期に1回学級で確認し、生活指導を行った。
- ・道徳の授業や、普段の生活の中で、学校のルールについて子どもに考えさせる努力をしている。ルールがある意味を伝えていても、理解出来る子とできない子がいる。子どもによって差があるように感じる。
- ・生活指導夕会の後など、大切なことを児童自身に考えさせる場を設けた。また、学級や学年で考える必要がある問題に関して、その都度時間をとって考えた。
- ・全体で守ろうとする姿勢が見られる一方、理解できない児童がいる。
- ・ルールを守らなかつたための事故やケガなどの実際の事例をあげ、臨場感のある指導を行う。
- ・定着しているルールもあれば、定着していないルールもあるため、学校で統一した指導が引き続き必要であると思う。

【考察】

- ・ルールについて考えさせる指導をしていることが、児童の規範意識につながっている。しかし、ルールを考えさせる指導をしているものの、一部の児童に対しては定着につながらないと考えていることが分かる。考えさせるだけでなく、SSTや事例を活用した体験的な指導も取り入れていきたい。

3 学校行事(運動会、学芸会、宿泊行事など)について

学校行事は、子どもにとって楽しい。	20	16	0	0	0
学校行事は、子どもにとって達成感がある。	16	20	0	0	0
自分は、子どもの意欲を大切にしている。	11	25	0	0	0

理由・改善策

- ・今年度はコロナ禍の中でもできる限り学校行事を行うことができていると考える。
- ・学校行事の達成感はすごく大きかったように感じる。子どもの意欲を大切にして、今回のような運動会ができたと思う。
- ・遠足では、子どもたちが自然の中で楽しく過ごすことができていた。子どもたちは行事のたびに成長していくと思う。
- ・例年のように行うことはできていないが、各行事を子どもたちが楽しみにしている。
- ・やった後に達成感を感じており、次の活動へつなげている。
- ・意欲があることで、獲得するものが多くなるので、児童の意欲を高める指導は大切である。

【考察】

- ・コロナ禍で活動に多くの制限がある中でも、工夫して学校行事を行うことが子どもの成長に繋がっている。今後も、感染予防をしながら子どもの意欲を高めることのできる活動内容を計画していく。

4 キャリア教育について

自分は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。	2	29	5	0	0
本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業がある。	7	27	2	0	0

理由・改善策

- ・研究の学級活動(3)でキャリア教育について考え、実際に授業をしたことは大きな経験になった。ただ、継続してキャリア教育を行っているとは言えない現状がある。様々な教科を通して児童に自己の将来について考えさせるように意識して授業を行っていく。
- ・キャリアパスポートがよかったです。
- ・研究を中心に行っていると思う。
- ・各行事においては、都度目標をもたせている。しかし、常に行事以外でそれができているか問われるとできていないのが現状である。キャリア教育は、研究授業を行うことで一定の成果を得たように感じる。これを継続していくことが必要だと感じる。
- ・将来をイメージしたり、尊敬する人などを扱う単元があるため、そこで具体的に将来のことを考えるきっかけをつくれるようにしている。

【考察】

- ・「子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」の回答で、とても思うが少ないとことから、今一度年間計画を見直し、教員が1年間の見通しを持つことや、各行事や教科を絡めてキャリア教育を進めていくことが必要である。6年生では将来について考える授業があるので、学習したことを下学年に広める活動も取り入れられるとよいのではないか。

5 教職員について

本校の教職員は、ていねいに指導している。	12	23	1	0	0
本校の教職員は子どものことを相談しやすい。	5	29	1	0	0

理由・改善策

- ・どの先生の授業を見ても、勉強になる。
- ・日頃から先生方のていねいな指導・保護者対応を肌で感じているため。
- ・隙間の時間でも子どもに関する情報共有をしている。

【考察】

- ・多くの時間を割いて教材研究したり、保護者の対応をしたりしている結果が出ている。引き続き、きめ細やかな指導や丁寧な保護者対応を続けていく。

6 全般について

本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。	8	28	0	0	0
子どもは、家庭で自主的に学習をしている。	0	14	19	0	3
本校の教育活動に満足している。	0	34	2	0	0
本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学	0	34	2	0	0
子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。	1	26	8	0	1

理由・改善策

- ・家庭での学習については宿題がメインとなっている。自主学習の宿題を取り入れていく必要もあるとは思うが、まずは学習習慣を身に付けることが優先と考える。
- ・コロナのため、体力の向上に向けた活動にはあまり取り組めなかった。しかし、元の生活に戻れば今まで通りの取り組みを続けて言えば大丈夫と考える。
- ・学力や体力の向上のための取組を進めていく。
- ・今年は、あまり外で自由に遊べず、体力があまりついていないように感じる。
- ・ハンカチ、ちり紙調べをするようになって、持ってくる児童が増えたが、朝ご飯をバランスよく食べたり、9時までに床についている児童が低学年にしては少ない。
- ・家庭での学習はこちらから提示する家庭学習にとどまってしまっている現状を感じる。ドリルパークなどを積極的に活用することで、児童に家庭での学習を定着させたい。
- ・子どもが楽しんで毎日学校に来ている様子が普段の表情から伝わる。また、2年生については、自主的に学習をしているように感じる。
- ・喧嘩も少なく、男女仲良く楽しく生活している。
- ・自主的に家庭学習に取り組まない児童が一定数おり、学力が定着しない。
- ・コロナ禍でも、室内遊びを工夫して、子どもたちは学校生活を楽しんでいた。感染症対策をしながらも、体育での運動量の確保と食育週間や委員会活動を通じて、健康な生活を推奨しているため。
- ・子どもたちの表情はよいと思う。
- ・家庭によって、学習に対する考え方方が違うため、全ての家庭で自主的に学習しているとは言えない。

【考察】

- ・「家庭で自主的に学習している」の項目では、「あまり思わない」の意見が多かった。タブレットでの学習を家庭学習に取り入れ、児童がすすんでやりたいと思えるようにしていく。また、コロナ禍で体力の向上が難しかった現状があるが、家庭でもできるよなことを考えて、取り組めるとよい。

7 学校からの情報提供について

本校は、学校だより・学年だよりなどで、保護者に情報提供している。	10	26	0	0	0
「学び舎」の区立(幼稚園・)中学校について情報が提供されている。	2	29	2	0	3
本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子がわかる。	4	23	4	1	4
本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。	9	26	1	0	0

理由・改善策

- ・コロナのため学校公開や保護者会が満足にできていない状況である。
- ・今年度は、学校公開や保護者会がいつものように実施されていないので、保護者も戸惑っていると思う。
- ・ホームページの学校日記などで日々情報を更新しており、情報提供できていると考える。
- ・情報提供できていると思う。
- ・今年度は学校公開を実施できていない。保護者会も1回のみであるため。
- ・コロナ禍、各学年はホームページの更新に努力した。学校公開や保護者会は、できる範囲で行う計画を進めている。youtube、時間差公開など、できることを考え、実践できたため。

【考察】

- ・学校公開や保護者会が実施されていない中、you tubeやホームページの活用で情報の提供に尽力できた。You tubeやホームページは負担に感じる教員も多いが、できる範囲で活用し、情報の提供に努める。

8 地域との連携について

本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。	3	32	1	0	0
本校は、地域に情報提供している。	2	31	1	0	2

理由・改善策

- ・地域の人材を活用するにあたり、これまでの取組についてまとめて、だれでも閲覧できる人材リストを作成するとよい。
- ・地域の活動が軒並み中止になり、今年度は活動しているかわからない部分が多い。
- ・3年においては、社会の授業で地域の農家さんに教えていただいた。
- ・コロナ禍、各学年はホームページの更新に努力した。学校公開や保護者会は、できる範囲で行う計画を進めている。

【考察】

- ・コロナ禍で例年のように地域との連携ができていない実情があるが、いつもと違う方法で連携ができた学年もある。こうした中でもどのようにしたら地域との連携を図れるのか考え、柔軟に計画を立てていく。

9 学校の安全性について

学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。	8	27	1	0	0
本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。	11	25	0	0	0
本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。	6	30	0	0	0

理由・改善策

- ・防災や安全に関するノートやパンフレットを配布時に児童に指導をするようにしている。

【考察】

- ・月に一回の安全点検を今後も実施していく。また、児童へは避難訓練時や防災や安全のパンフレット配布時に引き続き指導していき、今後も安全・安心な学校づくりに努めていく。

10 学校運営について

	学校の重点目標が明確である。	4	30	2	0	0
	校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	8	28	0	0	0
	理由・改善策 ・学校経営方針が年度当初に出され、説明をなされ、共通理解している。					
	【考察】 ・職員間では、年度当初の職員会議で重点目標や学校経営方針が共通理解されている。今後も重点目標に向けて、職員が協力して教育活動を進めていく。					
11	本校独自評価項目					
	児童は主体的に挨拶をする。	1	24	11	0	0
	児童の言葉遣いはよい。	1	22	13	0	0
	児童は、読書が好きである。	4	27	5	0	0
	理由・改善策 ・挨拶、言葉遣い等について、継続した指導をしていく。 ・挨拶は個人による。こちらからなければ返事を返す児童は多い。 ・乱暴な言葉づかいも聞かれる。語彙力が低い児童がいる。 ・挨拶はあいさつ運動などの成果もあってか習慣化されている印象がある。 ・休み時間、読書を楽しむ子が多い。 ・友達同士で強い言い方をしていたり、大人に対して敬語が使えなかつたりする。 ・ピロティでのあいさつ運動をもう少し長い期間してはどうか。 ・やり方は、今後考える。 (ピロティなら専科やスマイルの先生がいてくださるので)・友達に対して、慣れからか言葉遣いが荒くなる児童が多い。 ・廊下でも、挨拶をしてくれ、習慣化されている。黙々と本を読む姿をよく見る。おすすめの本を半分以上読む子がクラスの半数以上いるため。 ・児童により言葉遣いや読書量に差が見られる。					
	【考察】 ・挨拶週間など意識的に取り組む期間は挨拶が飛び交っているが、それが日常になっていない現状がある。都度繰り返し児童に指導し、さわやかな挨拶が飛び交う学校にしていきたい。 ・言葉遣いに関しても週目標になると守れるが、休み時間には粗雑な言葉が見られる。日常的に言葉遣いについて指導するとともに、家庭への呼びかけも学年だよりや保護者会時に行う。 ・今年度読書活動を活性化するために図書委員会で「すごろくカード」を作成した。今まで読んだことのないジャンルの本を手に取る児童の姿も多く見られたので、来年度以降も続けられるとよい。また、火曜日朝に実施している読書活動の時間や90冊文庫の有効活用など、児童が本に触れる機会を意識的に作っていくことで本との出会いを増やしていく。					

|